

政務活動報告書

議員名 宮川拓也

実施した政務活動の内容	<input type="checkbox"/> 研修 <input checked="" type="checkbox"/> 視察・調査 <input type="checkbox"/> 陳情・要望	
実施日	令和 5 年 11 月 14 日 (火) 午後 2 時～ 令和 5 年 11 月 15 日 (水) 午前 11 時	
場所	北海道札幌市	
主催区分	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 会派 <input type="checkbox"/> その他 ()	
同行者名	無し	
行程及び経費	行程 (交通機関、算定根拠、人数按分など)	経費 (単位:円)
	秋田空港—新千歳空港 航空券代	15,380
	空港リムジンバス代	1,100
	宿泊代	4,769
	空港リムジンバス代	1,100
		経費合計 22,349
実施概要と所感	11月14日 14:00-15:00 北ガスアリーナ札幌 46 11月15日 10:00-11:00 札幌市図書館・情報館 別紙の通り	

※同じ項目がある場合は他の様式でも可とします。

※政党が主催する活動や研修セミナー、陳情は政務活動対象外となります。

※実施した内容がわかる資料、領収書、要望書等を添付してください。

※自家用車使用のガソリン換算方法を統一するため、同一箇所の往復の場合は、片道距離から換算した額×2 (往復) でご記入ください。 距離につきましては、実測いただくか距離検索サイトでお調べください

【北ガスアリーナ札幌 46】

視察の概要

建設が着手される新横手体育館について、同規模の施設である北ガスアリーナ札幌 46 を視察した。当該施設は、バスケットボールコート 3 面分と 2500 席の観客席を備え、一体・分割利用が可能な施設である。可動式の観客席により多様なレイアウトが可能であり、プロスポーツや大規模競技会、各種スポーツイベントに対応している。また、ランニングコースやトレーニング室だけでなく、相撲室や柔道室、弓道室などの専門競技室も設けられた複合型スポーツ施設である。

所感

施設のメイン部分であるアリーナスペースは、これから建設される新横手体育館と同規模であり、アリーナを臨む客席や吹き抜けから、そのスケールを伺うことができた。コートレベルから三階の客席上部まで見学をし、将来の横手体育館の姿を重ね合わせた。アリーナは多目的な利用ができ、可動式の観客席によって様々なイベントに対応可能とのことだった。

施設は午前、午後、夜間の三部制で利用でき、一般利用の料金は 390 円と手頃であることに加え、利用ルールも市民にとって明確な体制となっている。平日の午後に訪れたが、多くの一般客が活動しており、利用のしやすさもあって地域のスポーツ文化の中心として機能している様子が伺えた。

また、アリーナ以外にもボクシング、剣道、アーチェリーなど専門の競技ができるスペースが 7 室ほどあり、同施設で様々な利用が可能なのは市民目線からもありがたいと感じた。

指定管理者は一般財団法人が行っており、札幌市の中心部という立地もあって様々な大規模イベントが多く行われているようだった。新横手体育館にあっては建設後の運営が課題になると感じている。市の直営で行うにせよ、指定管理者制度で行うにせよ、その運営力が求められる。このような素晴らしい施設が横手市にできることは歓迎するが、地域のスポーツ文化の発展に貢献するためには、最善の運営努力が必要であると感じる。



【札幌市図書館・情報館】

視察の概要

2024年9月にオープン予定の新横手図書館の運営の参考に視察を行った。当施設は従来の貸出機能に重点を置いた既存の図書館とは異なり、調査相談・情報提供に特化した「課題解決型図書館」として運営されている。施設は「おしごとから、わたくしごとまで」をコンセプトに、WORK、LIFE、ARTの3つのエリアに分けられ、各分野ごとに文献を配置し利用のしやすさを重視している。

所感

札幌市図書館・情報館は従来の市民向けの図書館と一線を画す施設となっており、ビジネスマンや札幌市を訪れる人に利用しやすい施設として、学びや交流が活発にできる環境作りがされている。1階では地域の魅力を発信し、2階ではWORK、LIFE、ARTというテーマごとに配置された書籍が探しやすく陳列され、手に取ってもらいやすい工夫が凝らされている。複数人での仕事や打ち合わせが可能なグループエリアやミーティングルームも設けられ、ビジネスパーソンにとって有益な設備やサービスが整っている。さらに、経営者や起業を検討する人への相談窓口も設けられていた。

施設の特徴としては、図書館でありながら蔵書の貸し出しを行っていないという点だ。貸し出しを行わないことで、そこに行けば常に最新の書籍と情報を入手できるという仕組み作りがされていて、まさにこれまでの図書館のイメージをくつがえす情報拠点として機能を果たしている。

このような図書館のあり方を学び、横手市の図書館を含む新公益施設の目指すべき方向性を考える良い機会となった。今後は既存の図書館という枠組みに捉われず、時代や地域のニーズに合わせた運営をしていくことが求められる。その意味では、札幌市図書館・情報館の運営の取り組みは参考にするべき点が多々あると感じた。

